
機動戦士ガンダム00 世界を変えるガンダム

剣聖龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

機動戦士ガンダムOO 世界を変えるガンダム

【Nコード】

N0079Z

【作者名】

剣聖龍

【あらすじ】

毎日を退屈に過ごしている木崎魁、新垣健人、西村真由、三藤拓真の4人はある日、4つのペンダントを拾う。

その瞬間、ガンダムOOの母艦、プトレマイオス2改に飛ばされ、艦長のスメラギから「ガンダムマイスターになってくれないかしら？」と、衝撃の言葉を聞く4人。

これは、ガンダムマイスターとなった少年達が、世界を救う為に世界を変える物語である。

第1話 謎のペンダント(前書き)

新作です。ではどうぞ。

第1話 謎のペンダント

〈ナレーションSIDE〉

「…つまんねえ」

木の日陰で寝ている少年が呟く。

「あ！いたいた、魁〜！」

「ん？ああ、真由か」

ポニーテールの真由と呼ばれた女子が魁と呼ばれた少年に近寄る。

「また昼寝してるの？」

「まあね。高校つまんないし。真由も同じだろ？」

「まあ、そうだけど…」

真由はそう言って寝ている魁の横に座る。

「やっぱり、剣道には入らないの？」

「ああ。なんかもう、昔みたいに面白くないんだよ。真由こそ、サバゲーの方は全然やって無いじゃないか」

ちなみにサバゲーとはサバイバルゲームの略である。

「私も魁と同じかな…なんかつまらないの」

「て言うか授業も退屈だし。分かる事を最初からやるとかマジで辛い」

「それは健人と拓真も言ってたね。私もだけど」

「だろ？」

そう言っただけで魁と真由は一度目を合わせ、深々と溜め息を吐いた。その後、昼休みの終わりを告げるチャイムを聞いた2人はそれぞれの教室、魁は1年4組に、真由は1年3組に戻っていった。

（放課後）

授業が終わり、魁と真由は生徒玄関に来ていた。

「よお、魁、真由」

不意に声を掛けられた2人は後ろを向くと、2人の男子が立っていた。

「健人、それに拓真か」

「どうしたんだい？2人揃って暗い顔をして」

拓真と呼ばれたメガネを掛けた知的な雰囲気男子が問い掛ける。

「毎度の事。授業が凄くつまんなかったの」

「そりゃ言えてるな」

今度は健人と呼ばれた茶髪の飄々とした男子が言う。魁、健人、真由、拓真。

この4人はクラスは違うが小学校からの幼馴染みである。（健人は5組、拓真は1組）

実は4人とも種類は違うがかなりの実力者で、中学3年の時に魁は剣道、健人はクレー射撃、真由はサバイバルゲーム、拓真はExcelの全国大会で優勝している実績を持つ。

更に周りには隠しているが、勉強に關しても4人は既に東大の卒業生並に頭が良い。（何故かは分からない）だが、この4人には悲しい共通点もある。

それは4人とも親が居ない事だ。

4人がまだ小さい頃に起こったとある橋の崩落事故。それに4人の親は運悪く巻き込まれてしまい、この世を去った。

それから身寄りも無い4人は施設に入り、中学、そして今（高校）は寮に入っている。

それ以外にも悲しくはないが共通点があった。

4人ともガンダムが好きな事だ。

特に好きなのは4人とも『ガンダム00』。

そんな共通点もあり、4人は仲良くなったという訳だ。

「ん？なんだ？」

下駄箱を開けた魁が中にある何かを見つけ、引っ張り出した。

それは青い宝石のようなペンダントだった。

「なんだこりゃ？」

「あれ？僕の下駄箱にも何かある」

「俺もだ」

「私も」

そう言っつて健人、真由、拓真の3人も下駄箱から何かを引っ張り出す。

健人は緑色、真由はオレンジ色、拓真は紫色の宝石のようなペンダントだった。

「なんだろう、これ？」

「宝石…じゃないよな」

「誰かの落とし物でしょうか？」

「さあ…一体なんなんだ？」

4人はそれぞれのペンダントをまじまじと見つめる。その時、4つのペンダントが青白い閃光を放ち、次の瞬間、4人は玄関から消えていた。

く???く?

「うん…」

魁が目を覚まし、周りを見渡す。
すると、倒れている健人、真由、拓真を発見した。
魁は倒れている3人に近寄り、揺する。
すると3人は目を覚ました。

「魁…？」

「良かった。目が覚めたんだな」

「ここは何処でしょうか？」

「学校じゃねえよな」

立ち上がり、魁達は周りを見渡す。
床、壁、天井が白一色で壁と床にはモニターが埋め込まれている。
4人はその光景を知っていた。

「おい、ここって…」

「もしかすると…」

「夢じゃないよね…？」

「夢じゃありません、ここは…」

『『ガンダム00』のプトレマイオス2改のブリーフィングルーム
！？』』

4人は同時に叫ぶ。

その時、ブリーフィングルームのドアが開く音がし、その方向には4人の知る人物達が立っていた。

「あ、貴女は！ソレスタルビーイングの戦術予報士、スメラギ・李・ノリエガさん！？」

「ええ、そうよ」

「それにオペレーターのフェルト・グレイスにミレイナ・ヴァステイ！？」

「操舵士のラッセ・アイオンさんも！？」

「ついでにイアン・ヴァステイとリンダ・ヴァステイも居る！？」

「ついであんなだ、ついであんなだ！」

怒るイアンをリンダが宥め、スメラギが口を開いた。

「まず知ってると思うけど、私が戦術予報士のスメラギ・李・ノリエガ。木崎魁君、新垣健人君、西村真由さん、三藤拓真君、ソレスタルビーイング（以下CB）によっこそ」

「CB！？じゃあここは……」

「貴方達の言う通り、プトレマイオス2改のブリーフィングルームです。私はフェルト・グレイス、オペレーターをやっています」

「同じく、ミレイナ・ヴァステイです！」

「どういう事ですか！？ガンダムマイスターは刹那さん達じゃないんですか！？」

「まだ言っただけだったわね。私達はCBだけど、“本物のCBじゃない”」

「どういう事ですか？」

「私達はガンダムOOのCBを元にして生まれたCB。私達の目的は様々な世界の監視、及びバグ世界になりかけの世界への武力介入」

「様々な世界の監視？」

「バグ世界？」

聞き慣れない単語に、4人は首を傾げる。

「一言に“世界”と言っても色々な世界、幾つものパラレルワールドが存在するの。当然中には存在し続ける世界もあれば消滅する世界もある。でも消滅する筈の世界に突然“バグ”と言うものが発生し、他の世界に影響を与える“バグ世界”と呼ばれるものになってしまうの。そうなたらその世界は破壊するしか無くなるわ」

『……………』

「でもバグが発生したからと言って、必ずしもその世界を破壊しなければいけない訳じゃない。バグが侵食し切る前に世界を変えればバグは変革に耐えきれず、破壊されるわ。そして私達のCBのガン

ダムマイスターの使命は世界を変える為に闘って貰う事よ。でもいくら私達〇〇から生まれたからといって、流石に向こうのガンダムマイスターまではそのままは連れてこれず、私達は別の世界からマイスターを集める事にした。そしてそれに選ばれたのが…」

「僕達、と言う訳ですね？」

スメラギの言葉を魁が続けた。

「そう言う事。で、やってくれるかしら？」

スメラギが問い掛けると、魁達は黙り込んでしまう。

「あの…世界を変えるって事は、やっぱり、人を殺すんですか？」

真由が質問する。

「…ええ、そうよ。そのせいで今までガンダムマイスターの候補だった者達は次々と降りていったわ」

当然である。誰だって人を殺したくない。

しかも、CBはテロリストとも取れるため、言い方を変えれば“テロリストになれ”と言われていたのと同じだ。

沈黙する4人。だが、突如それを破った者が現れた。

「僕、やります！」

そう言ったのは魁だ。

「魁!？」

「理由を聞かせてくれるかしら？」

「…僕は向こうの世界で剣道で優勝してから殆どの事がつまらなくなりました。でも、OOを見て、自分も世界を変えてみたい、ガンダムを信じてみたいと思っただけです。だから、お願いします！」

「…分かったわ。木崎魁君、貴方をCBのガンダムマイスターとします」

「はい！」

「お前達はとうするんだ？」

依然、黙り込んでいる3人にラッセが問い掛ける。

「…俺もやる。俺も魁と同じで、世界を変えてみたい！」

「私も！魁だけには任せるなんて出来ません！」

「僕も、ガンダムを信じてみたいです！」

「…良いのね？後戻りは出来ないわよ」

「覚悟の上です」

4人を代表して、魁が応える。

「分かったわ。貴方達4人をCBのガンダムマイスターとします。でも色々と準備もあるでしょうから今日はこれまで。明日の午後7

時30分に貴方達の学校の屋上にそれぞれペンダントを持って来て頂戴」

『はい!』

〜次の日〜

一晩たった今日、魁達は朝から自室にてそれぞれ準備をしていた。リュックやカバンに荷物を積んでいた。

〜魁自室〜

「よし、これで最後だ」

リュックに荷物を入れ終わり、魁はチャックを閉める。最後に青いペンダントを首に掛けた。

「後は…時間まで待つ位しかないか」

そう呟く魁。その他の3人も時間まで自室で過ごしたのだった。

〜夜、7時30分〜

学校の屋上には魁達4人が居た。

彼等は既に決心している。ガンダムマイスターとして闘う事を。そしてそれぞれが首に掛けているペンダントが青白い輝きを放った。

「…行」
「皆」

「あ
あ」

「うん
うん」

「分かってますよ
」

そして4人はその世界から消えた。

第1話 謎のペンダント（後書き）

感想等お待ちしております。

フェルトがキーボードを操作し、シミュレーターを起動させた。
そして4人の意識に直接、夥しい情報が流れ込んで来る。
それが数秒間続いた。

スメラギ

『目を開けて良いわよ』

そう言われた4人は目を開ける。

その視線に飛び込んできたのは、衝撃だった。

〈ナレーションSIDEOUT〉

〈魁SIDE〉

僕はスメラギさんに言われた通り、目を開けた。

すると、僕の目には何処かの空港のような景色が広がっていた。

そこは知っている。

ガンダムOOファーストシーズン第1話でエクシアが武力介入を行
ったAEUの訓練場だ。

更に、僕は自分自身の姿を見て驚きを隠せなかった。青と白のボデ
イ。

左腕に装着している青と白の鋭い盾。

肩の後ろと腰の後ろとから伸びている計四本の白い棒のような物体。
両腰にマウンドされている左右で長さの違う剣。

そして右手に持っている小型の盾が装着され、銀色に輝く刀身が折
り畳まれた武器。

見間違う筈もない。

それは僕の好きなガンダムの一機、『ガンダムエクシア』だ。

魁

「これは…エクシア？」

まじまじと全身を見る僕。その時、僕の目の前に3つのモニターが展開された。

健人

『魁！どうなってんだこりゃ！？なんか俺、デュナメスになってるぞ！？』

真由

『私はキュリオスになってるんだけど…なんで？』

拓真

『僕も気付いたらヴァーチェになっていましたけど…』

モニターには健人の声がするデュナメス、真由の声がするキュリオス、拓真の声がするヴァーチェが映っている。

スメラギ

『どうかしら皆？ガンダムになった気分は？』

魁

『ガンダムになった？それってどういう事ですか！？』

スメラギ

『貴方達が拾ったペンダント。あれはガンダムなの』

健人

『あのペンダントが…？』

モニター越しに健人の声が響く。

スメラギ

『今、貴方達の意識と体はGN粒子となってガンダムと一体化しているわ。思い通りに動く筈だから少し動いてみて』

その言葉通り、エクシアとなった僕は空中を動いてみた。

エクシアになっけていても、元の体と同様に違和感無く動く事が出来た。

スメラギ

『もう十分かしら？じゃあ、今度は戦闘に入って貰うわよ』

“戦闘”という単語に一瞬ドキリとし僕は動きを止める。

すると、何処からともなく、大量のMSが出現した。

くすんだ緑色と明るい青緑の2タイプ。

それはOOの三国家の1つ、『AEU』が開発した可変機能を持つMS、ヘリオンとイナクトだ。

スメラギ

『現れたMSを全て撃墜して頂戴』

4人

『はい！』

返事を返すと、ヘリオンとイナクトがリニアライフルを構え、発砲してきた。

魁

「うわっ!?!」

僕はそれを左右に移動して回避する。

何発かが、命中したりかすったりしたが、特に痛み等は無かった。

魁

「避けてるだけじゃ、勝てない！」

右手のライフルモードにしたGNソードを構え、トリガーを引いた。銃口から粒子ビームが放たれ、前方にいたヘリオンを貫き、爆散させた。

魁

「これが…ガンダム之力…よし、行くぞ！」

折り畳まれていた刀身を展開し、敵機に向かって突進する。

魁

「うおおおおおー!!」

GNソードをイナクトに向けて振り下ろす。
するとイナクトは真っ二つになり、爆散した。

魁

「よし、次だ！」

僕はヘリオンとイナクトの群れに向かっていった。

〈魁SIDEOUT〉

〈スメラギSIDE〉

アニュー

「凄いですね…あの子達…」

アニューがモニターを見ながら感想を述べる。

モニターには4つ映像が映し出され、エクシアの魁君はAEUのMSを剣で両断し、デユナメスの健人君はユニオンのフラッグをスナイパーライフルとピストルで撃ち落とし、キュリオスの真由さんは人革連のティエレンをビームサブマシンガンとビームサーベル、更にシールドのクローとニードルで破壊し、ヴァーチェの拓真君はバズーカとキャノンでヘリオン、フラッグ、ティエレンを爆煙に変える。

スメラギ

「なかなかやるわね…」

フェルト

「スメラギさん。もうすぐ4人共MS部隊を撃破し終わります」

フェルトからの報告が私の耳に入る。

スメラギ

「…終わったらシミュレーターをARに切り替えて」

その言葉にフェルトだけでなく、ミレイナ、アニュー、リンダ、更に後ろでモニターを見ていたイアンとラッセが驚いた。

イアン

「おいおい！いくらなんでも昨日今日ガンダムマイスターになった奴らにARはキツすぎないか!？」

スメラギ

「それでもやっつて貰うしかないわ。魁君達は自分達の意味でガンダムマイスターになったんだから。それに…早くしないと“奴ら”が動き出す」

ラッセ

「“奴ら”か…」

その言葉に皆は黙り込み、シミュレーションルームに沈黙が流れる。その中で私はひたすらモニターを見ていた。

〈スメラギSIDE OUT〉

〈ナレーションSIDE〉

魁

「こいつでラストオ！」

最後のイナクトをGNソードで両断する。

すると周りの景色が変わり、何処かの海上に変わった。

周りには魁のエクシアの他に、デュナメス、キュリオス、ヴァーチエが確認でき、魁はデュナメス達の元へ近寄る。

魁

「皆…なのか？」

拓真

「その声…魁君ですね？」

ヴァーチェからは拓真の声が聞こえる。

健人

「お前はエクシアか…」

真由

「まあ大体分かってたけどね」

話し合う4人。

そこへスメラギから通信が入った。

スメラギ

『皆、聞こえるかしら？さっきのは個人訓練で無事終了したわ。次はこれと闘って貰うわよ』

スメラギがそう言うと、魁達の視線の先に赤い光が集まり、その中から赤いボディに背中からは赤いGN粒子を放出する細身で四つ目の機体が現れる。

その機体を魁達は知っていた。

魁

「あれは…アルケーガンダム!？」

スメラギ

『このアルケーガンダムを4人で協力して撃破して頂戴。撃破したらシミュレーションは終了だから』

スメラギが言い終わると同時に、アルケーが右手に持った実体剣、GNバスターソードで斬り掛かってきた。

魁達はバラバラの方向移動して回避するが、そこからアルケーが加

速し、エクシアにバスターソードを叩き付けた。

魁

「ぐあっ！」

健人

「魁！この野郎め！」

吹っ飛ばされる魁。

それを見た健人がスナイパーライフルをアルケーに向け、トリガーを引いた。

だがその一撃をかわしたアルケーのスカートアーマーから8つの金属の牙、GNファングが鋭角的な動きで迫り来る。

健人はシールドを展開し、回避体勢に入るが、ファングがデュナメスをかすめ、放たれたビームが命中する。

健人

「うわああああ！」

更にファングはヴァーチェに、襲い掛かり、アルケーはキュリオスにバスターソードで斬り掛かる。

拓真

「うわあ！」

真由

「きゃあああ！」

機動性の低いヴァーチェの装甲に多数のビームが命中し、キュリオスはシールドでバスターソードを受けるが、大きく吹っ飛ばされた。

魁

「ぐ…皆、大丈夫か？」

健人

「当たり前だ…だが流石にアルケーは一筋縄ではいかねえな」

真由

「何か手はないの…？」

拓真

「…あります」

その言葉に皆が拓真を見た。

拓真

「恐らくアルケーにはバラバラに攻撃しても勝ち目はない。だって僕達が協力して闘うしかない」

魁

「…それしかないな」

真由

「だね」

健人

「ああ。拓真、作戦はあるか？」

拓真

「一応はね」

魁達は拓真が考えた作戦を聞き、役割等を話し合う。

魁

「よし、準備は出来たな？」

3人

『ああ（うん）（大丈夫だよ）』

3人に確認を取る魁。

そして魁達4人はアルケーに向かっていった。

向かってくる4機のガンダムに、アルケーはファングを射出した。

8つの金属の牙が向かっていく。

拓真

「GNフィールド、最大展開！」

そう言うと、ヴァーチェから粒子が放出され、粒子の防壁、GNフィールドを展開する。

そのフィールドは拓真の直ぐ後ろに控えている魁達も入る程の巨大なものとなり展開される。

そこへファングが襲い掛かった。

ファングから放たれるビーム、更にファング自体が迫り来るが、フィールドがそれを防ぐ。

拓真

「今だ皆！」

拓真が魁達に声を飛ばす。そして魁達はそれぞれの銃器で自分の向いている方向に粒子ビームを放ちまくった。

フィールドを展開した拓真も移動しながらGNバズーカとGNキヤノンを放つ。あらゆる方向に放たれる粒子ビーム。ファングは回避していたが、1つ、また1つと破壊されていき、遂に全て破壊された。

魁

「行くぜ！」

全てのファングが破壊された事を認識した拓真がフィールドを解除し、魁がGNソードを展開してアルケーに弾丸のように向かっていく。

間合いに入り、魁はGNソードを振るうが、バスターソードで受け止められる。そこにアルケーは両足のつま先からGNビームサーベルを展開した。

健人

「やらせるか！」

そう言ったのは先程の位置から移動し、頭部をスナイパーモードにし、スナイパーライフルを構えた健人だ。ロックオンスコープがアルケーの右足をロックする。

健人

「デユナメス！目標を狙い撃つ！！」

トリガーが引かれ、スナイパーライフルの銃口から放たれた粒子ビームは、正確に右足を撃ち抜き、爆散させた。バランスを崩すアルケー。そこで魁は一旦距離を取り、バランスを崩したアルケーに飛行形態のキュリオスが迫る。

真由

「キュリオス！目標へ飛翔する！！」

そこから変形し、シールドをクローに変形させ、ニードルを展開する。

真由？

「喰らいやがれえええ！！」

シールドから展開したニードルをアルケーに突き刺し、クローで挟み込む。

そのまま強引にアルケーの左足を引きちぎった。

真由？

「拓真あ！続けえ！！」

言い残し、キュリオスがアルケーから離脱する。

両足を失ったアルケーに拓真はGNバズーカを向けた。

胸の部分にバズーカを接続し、両側のグリップを掴み、圧縮粒子をチャージしていく。

拓真

「ヴァーチエ！目標を破壊する！！」

その言葉と共に溜め込まれた圧縮粒子が解放され、極太の粒子ビームが放たれた。

迫る粒子ビームをバスターソードを盾にしてアルケーは防ぐが、バスターソードは耐えきれず溶解し、アルケーは咄嗟に離脱したが右腕を挟まれた。

拓真

「止めだ！魁君！」

魁

「任せろ！」

拓真の言葉に答えた魁がボロボロになったアルケーに突進していく。

魁

「エクシア！目標を駆逐する！！！」

そう言うとエクシアは、上昇しながら縦回転斬りを繰り返した。回転の勢いを付けたGNソードがアルケーに向かって振り下ろされる。縦に切り裂かれたアルケーは身体中からスパークが散り、爆発して赤いGN粒子を散布させた。それと同時にシミュレーションも終了したのだった。

くシミュレーションルーム

シミュレーションが終了し、魁達はシミュレーターから出てスメラギの元へ向かった。

スメラギ

「お疲れ様、皆。初めてであそこまで出来るなんて流石ね」

魁

「ありがとうございます」

スメラギ

「突然だけど何か変わった感じはないかしら？」

健人

「そう言われれば…確かに」

拓真

「なんだか…自分なただけど、自分じゃないような感じがします…」

魁と真由も2人と似たような事を言った。

スメラギ

「それは恐らく、ガンダムの中に居たマイスターの意思が貴方達と融合したからよ」

魁

「マイスターの意思？」

スメラギ

「そう。実はガンダムの中には元のマイスターの意思が宿っていて、貴方達はそれと融合した事により、元のマイスターと同じ能力を手に入れたのよ」

健人

「マジかよ…」

フェルト

「その証拠に、ガンダムを見てみて下さい」

フェルトに言われた通り、4人はそれぞれのガンダムを見る。

するとそれは形が変わっており、魁のは青と白の剣が付いたペンダントに、健人のはモスグリーンのリストバンドに、真由のはオレンジに白のラインが入った羽根のイヤークラスに、拓真のは白と黒の腕輪になっていた。

スメラギ

「これでガンダムは貴方達のものになったわ。だから皆にはコードネームを与えます」

その言葉を聞いた魁達は顔を引き締めた。

スメラギ

「まず健人君。貴方はフェルシオ・ストラトスよ」

フェルシオ

「オーライ。任せとけ」

スメラギ

「次は真由さん。コードネームはアリシア・ハプティズム」

アリシア

「分かりました」

スメラギ

「拓真君。貴方はレイティア・アーデ」

レイティア

「はい、分かりました」

スメラギ

「最後に魁君」

魁

「はい」

スメラギ

「貴方のコードネームは…雷那・F・セイエイよ」

雷那

「了解」

4人はコードネームを与えられ、ガンダムマイスターとなった。

フェルシオ

「そう言えば俺達が介入する世界って何処なんだ？」

フェルシオが疑問を口にする。

スメラギ

「それなんだけど実は…」

フェルト

「スメラギさん、GNアーチャーが帰艦しました」

スメラギが何か言いかけた時にフェルトが報告する。

スメラギ

「分かったわ。パイロットにはブリッジに来るように伝えて」

フェルト

「了解です」

スメラギ

「とりあえずブリッジに移動しましょう。話はそれからよ」

くブリッジく

ブリッジには朱色のパイロットスーツを纏い、朱色のピアスをした女性が居た。

???

「スメラギさん、偵察任務、終了しました」

スメラギ

「ご苦労様」

???

「あの、もしかしてこの子達が…?」

女性が雷那達を見ながら尋ねる。

スメラギ

「ええ。ガンダムマイスターになった子達よ」

雷那

「雷那・F・セイエイです」

フェルシオ

「フェルシオ・ストラトスだ」

アリシア

「私はアリシア・ハプティズムです」

レイティア

「レイティア・アーデと言います」

スメラギの言葉に続くように雷那達が自己紹介をする。

マリー

「私はマリー・パーファシー。よろしくね」

スメラギ

「それで、どうだった？」

スメラギが尋ねると、マリーの表情が真剣なものに移り変わる。

マリー

「やはり“奴ら”は既に私達の行く先に展開していました。こちらに攻めてくるのも時間の問題だと思います」

スメラギ

「そう…」

アリシア

「あの、奴らってなんですか？」

スメラギ

「貴方達にはまだ言っていなかったわね」

そう言いながらスメラギが振り返る。

スメラギ

「奴らとはチームトリニティのような組織で既にガンダムを持っている上にMSの部隊まで持っている組織よ。奴らはバグ世界を救える力を持っているにも関わらずバグごと世界を破壊するやり方を基本としているわ。奴らのせいでざっと20以上のバグ世界が破壊されて来たわ」

レイティア

「そんな…救えるのに破壊してしまうなんて…」

雷那

「OOのトリニティそっくりだな」

スメラギ

「しかも奴らは私達CBのやり方を否定し、私達をも破壊しようとしているわ。しかも私達の進路上に部隊を展開している。従って、私達は最初の世界に行く前に奴らを突破しなきゃいけないの。やってくれるかしら？」

雷那

「当たり前です。こんな所で立ち止まっている訳にはいきません」

雷那の言葉にフェルシオ達も頷く。

レイティア

「ところで、結局介入する世界は何処なんですか？」

キャラ紹介

名前 木崎魁

(きざき かい)

コードネーム 雷那・F・セイエイらいな

年齢 15歳

身長 162センチ

体重 49キロ

誕生日 11月27日

見た目 ガンダムシードDESTINYのシン・アスカ

性格 ガンダム00の刹那とロックオンを足して2で割ったような性格。

だが、刹那の意志と融合した事により、若干刹那の性格の方が強い。好きなガンダムはエクシアやAGE-1等、主人公系の機体。

中3の時に剣道の全国大会で優勝している。

その為、戦闘では剣等を駆使した接近戦を主体として闘う。

機体 ガンダムエクシア

名前 新垣健人

(あらがき けんと)

年齢 16歳

身長 174センチ

体重 54キロ

誕生日 6月1日

見た目 ガンダム00のロックオン・ストラトス（弟）を若干幼く
した感じ

性格 ガンダム00のロックオンそのままで、頼れる兄貴分のような性格。動体視力に優れており、クレー射撃の全国大会で優勝している為、射撃を得意とする。好きなガンダムは射撃系。ロックオンの意志と融合した事により、動体視力が更に上がった。

機体 ガンダムデュナメス

名前 西村真由

（にしむら まゆ）

コードネーム アリシア・ハプティズム

年齢 15歳

身長 157センチ

体重 40キロ

誕生日 9月14日

見た目 バカとテストと召喚獣の島田美波

性格 ガンダム00のアレルヤのような性格で、胸はやや大きめ。やや天然ボケな所がある。サバイバルゲームの全国大会で優勝した事があり、身体能力やサバイバル知識は高め。

アレルヤの意志と融合した事により、超兵の力を手に入れ、もうひとつの人格、エリシアが生まれた。

戦闘機に変形するガンダムが好き。（エリシアの人格はハレルヤの女版）

名前 三藤拓真

（みとう たくま）

コードネーム レイティア・アーデ

年齢 15歳

身長 166センチ

体重 51キロ

誕生日 2月26日

見た目 青のエクソシストの奥村雪男

性格 見た目から分かるように、知的な頭脳派。

コンピューター等の扱いにたけ、Excelの全国大会で優勝した過去を持つ。

テイエリアの意志と融合した事により、イノベイドの能力を得た。
好きなガンダムは砲撃系。

機体 ガンダムヴァーチェ

キャラ紹介（後書き）

感想等、お待ちしております。

機体紹介

ガンダムについて

CBが作り上げた、ISの利点等を取り入れたガンダム。普段は待機状態となっており、使用時はパイロットをGN粒子に変換し、融合する。

武装は量子変換されているものもある。装甲はEカーボンを強化したEカーボンカスタム。（実弾等は殆ど効かず、ビームもある程度までなら耐えられる）

また、ガンダムには各パイロットの意志が宿っており、現在は雷那達と融合している。また、プトレマイオス2改には予備としてオリジナルのGNドライブが1つ積まれている。

機体名 ガンダムエクシア

待機状態 青と白の剣がついたペンダント

動力源 GNドライブ（オリジナルー1）

機体説明

雷那のガンダム。接近戦を重視した機体で、同時に高い機動性能も併せ持つ。

セブンスードを装備したノーマルフレームと、機動性能を重視したR2フレームの二種類のボディがある。また、メイン武装のGNソードは、どちらのボディの時もGNソード改になった。

武装

・GNソード改
メイン武装。右腕に装備され、ライトグリーンのクリアパーツを刃に使用した刀身を展開したソードモードと、刀身を折り畳み、銃口を出現させたライフルモードの2つがある。
また、圧縮粒子をチャージする事により、ビームソードを展開したり、バリア等突き破る事も可能。

・GNシールド
左腕に装備。圧縮粒子をチャージして、表面にフィールドを展開出来る。

・GNロングブレイド、GNショートブレイド
両腰に装備されている長さの違う実体剣。
粒子を纏って切れ味を高める事が出来る。

・GNビームサーベル、GNビームダガー
肩の後ろと、腰背部に装備されている柄。
引き抜くと圧縮粒子の光剣が出現する。
基本的に肩のものをサーベル、腰背部のものをダガーとして使用する。

・GNバルカン
両腕に搭載されている粒子ビームを放つバルカン砲。主に牽制として使用される。

特殊能力

・オーバーブースト
GNドライブの安全装置を解除し、主に機動性能を上げる機能。
だが使用中にドライブに被弾すると、一時的に性能が落ちる。

単一仕様能力

『トランザム』

機体内部の圧縮粒子を完全解放し、機体性能を3倍化させる。
発動中は機体が赤色化し、粒子ビームの威力がアップ。更に移動時に自機の幻影を形成する。

最大稼働時間は10分間で、終了後、10分間は機体性能が60%
ダウンする。

追加装備

・????

機体名 ガンダムデュナメス

待機状態 モスグリーンのリストバンド

動力源 GNドライブ（オリジナル2）

機体性能

フェルシオのガンダム。

射撃や狙撃性能に特化した機体。

狙撃モードの時はアンテナが下がってスナイパーモードとなる。

若干機動性能が低い。

また、デュナメスにはハ口も量子変換され、サポートをする。

ハ口の役割はスナイパーモードの補助。

武装

・GNスナイパーライフル大型の狙撃銃。一撃の威力が高い。

取り回しが少しキツイ。
使わないときは右肩にマウンドされる。

・GNビームピストル
下腿部に左右1つずつ装備されたピストル。
連射機能が高い。

・GNビームサーベル
腰背部のブースターに装備された二本のビームサーベル。

・GNミサイル
前のスカートアーマー内部に格納されたミサイル。
1つのポッドに二発ずつ格納され、ポッドは全部で四つある。
命中後は粒子を吹き出し、相手を内部から破壊する。

・GNフルシールド
両肩から脚までを覆うように装備された可変式シールド。
粒子をチャージして防御力を高める事が出来る。

・スナイパーモード
頭部をスナイパーモードにし、狙撃機能を高める機能。

単一仕様能力
『トランザム』

追加装備
・????

機体名 ガンダムキュリオス

待機状態 白のラインが入ったオレンジのイヤークラス

動力源 GNドライブ『オリジナル3』

機体説明 アリシア（エリシア）のガンダム。

戦闘機形態に変形可能で、機動性能が高い。

防御力が少し低い。

戦闘機形態の時は他のガンダムを乗せて飛行する事も出来る。

武装

- ・GNビームサブマシンガン

連射性能の高いライフル。戦闘機形態の時は機体下部に装着され、使用する事も出来る。

- ・GNビームサーベル

腰背部のスカートアーマーに格納された二本のビームサーベル。

- ・ミサイルユニット

量子変換されている手持ち式の小型のミサイルポッド型武装。

両手に1つずつ持って使用する。

発射されるミサイルはデユナメスのものと同様。

- ・GNシールド

左腕に装備した細長いシールドで、他のシールドと同じように粒子をチャージして防御力を高める事が可能。先端が変形し、クローとして使用出来、更にニードルも格納されている。

武装（戦闘機形態）

・GNビームサブマシンガン

・テールユニット

機体の後方に装備されたミサイルで、積み重ねられているミサイルはデユナメスと同じもの。

爆弾も積んでおり、爆撃も可能。

空になった場合は自動で粒子となって、収納される。

単一仕様能力

『トランザム』

追加装備

・????

機体名 ガンダムヴァーチエ

待機状態 黒と白の腕輪

動力源 GNドライブ（オリジナルー4）

機体説明

レイティアのガンダム。

火力と防御力に特化した機体で、パワーもピカイチ。その分機動性能がかなり低い。

他のガンダムと比べて粒子の消費が激しい為、GNコンデンサーが各所に取り付けられている。

武装

・GNバズーカ
大型のバズーカ。放たれる粒子ビームの威力は凄まじく、胸部に連結させてバズーカを両手で持ち、極太の圧縮粒子のビームを放つバーストモードを取る事も可能。

・GNキャノン
背部のバックパックの両側に装備されているキャノン砲。威力はバズーカにも劣らない。

・GNビームサーベル
両腕に1つずつ格納されたビームサーベル。

特殊能力

・アーマーパージ
機体の装甲を分離し、内部に隠されているガンダムナドレとなる機能。

分離されたアーマーは粒子になって収納される。
使用した場合、一度機体の展開を解除しなければ再使用出来ない。

単一仕様能力

『トランザム』

追加装備

・????

機体名 ガンダムナドレ

動力源 GNDドライブ（オリジナルー4）

機体説明

ヴァーチェが装甲を分離した姿。

機動性能が格段に上がるが、防御力が下がっている。対象を制御下に置くことが出来る、トリアルシステムが切り札。

武装

・GNキャノン

ヴァーチェのGNキャノン。両手に持って使用する。普段は量子変換されている。

・GNビームライフル

粒子ビームを放つビームライフル。

ビームサーベルを展開する事も出来る。

・GNビームサーベル

引き続き、両腕に1つずつ格納されているビームサーベル。

・GNシールド

左腕に装備されているシールド。

粒子をチャージして防御力を高める事が可能。

特殊能力

・トリアルシステム

対象を分析した後、プトレマイオス2改のヴェーダとナドレのシステムをリンクさせ、対象を制御下に置く機能。

ただし、発動中は身動きがとれず、半径50キロ以内にプトレマイオス2改が居なければ使用出来ない。

単一仕様能力

『トランザム』

機体名 GNアーチャー

待機状態 朱色のピラス

動力源 GNコンデンサー

機体説明

マリーの機体。一応はガンダムタイプ。戦闘機形態に変形出来、主に支援等で活躍する。ドライヴを搭載していない為、活動時間は有限。

武装

・GNビームライフル

両手のビームライフル。

他のものより口径が広く、広範囲にビームを撃てる。

・GNビームサーベル

腰背部に搭載された二本のビームサーベル。

・GNバルカン

機首の粒子ビームを放つバルカン砲。

・GNミサイル

背部のコンテナに搭載されているミサイル。

ミサイルはデユナメスやキュリオスと同じもの。

単一仕様能力

『GNブースト』

いわゆるトランザムもどき。機体内部の圧縮粒子を少し開放し、性能を2倍にする。

最大稼働時間は7分。

終了後、7分間は性能が70%にダウンする。

機体紹介（後書き）

感想等、お待ちしております。

第3話 ファースト・ミッション

（ナレーションSIDE）

雷那達がマイスターになってから1週間。日々シミュレーションに励む彼らと仲間を寄せ、次元の狭間を進むプロレマイオス2改。現在、そのブリーフィングルームではスメラギを中心に、雷那達にCBに敵対する組織についての説明が行われていた。

スメラギ

「どうかしら？ 奴ら、私達は『ファイアバグ』と呼んでいる組織については分かっただかしら？」

アリシア

「大体は…」

フェルシオ

「要するに、OOの三国家とトリニティが合体したもんだと思えば良いんだろ？」

スメラギ

「そう思っただけで貰って良いわ」

フェルシオの言葉にスメラギは応える。

因みに今、彼ら4人のマイスターはCBの制服を着用していた。

レイティア

「でも厄介なのは奴らの戦力、そして…」

雷那

「トリニティのガンダム…」

レイティアの言葉を続けたのは隣にいる雷那だ。

スメラギ

「2人の言う通り、ファイアバグの厄介な所は戦力の数とガンダムよ。しかもガンダムがある事から他に疑似太陽炉搭載型の機体があつてもおかしくないわ」

フェルト

「しかし、奴らを突破しなければ最初のバグ世界であるインフィニット・ストラトスの世界に行く事は出来ません」

スメラギ

「時間を掛けていたらバグが世界を侵食しきつてしまつわ。従つて、私達は進路上に展開しているファイアバグの部隊を強行突破します」

その言葉にマイスターの間に緊張が走つた。

スメラギ

「最初からハードなミッションになるけど、皆、良いわね？」

スメラギの言葉に一同は頷いた。

スメラギ

「じゃあ今日のブリーフィングはここまでよ。皆は部屋に戻って休んで貰つて良いわ」

その言葉を聞いたメンバーが続々とブリーフィングルームの出口に向かつていく。

雷那

「あの、イアンさん、リンダさん」

その中で、雷那はイアンとリンダを呼び止めた。

イアン

「ん？どうした雷那？」

リンダ

「何か質問かしら？」

雷那

「実は…二人に頼みたい事があります」

イアン、リンダ

「「頼みたい事？」」

ハモる2人。そこから3人は格納庫に移動し、雷那の話を聞いた。

イアン

「…成る程な。確かにこいつは使えるな」

そう言ったイアンは少し考え込み、数秒後、「よし！」と顔をあげた。

イアン

「分かった。なんとかやってみる」

リンダ

「用件があつたら呼ぶからそのつもりでいてね」

雷那

「はい」

そう応え、雷那は格納庫の出口に向かっていった。

（2日後）

それから2日後、遂にファイアバグの先発隊がプトレマイオス2改の進路上に現れた。

CBのメンバーは第一種戦闘配置についた。

その格納庫では雷那達マイスターとマリーがパイロットスーツを着用して待機していた。

パイロットスーツを着用するのは、万が一機体を破壊された場合、パイロットの安全を確保し、分離した太陽炉を回収する為である。

スメラギ

『全パイロットは機体を展開、発進準備に入つて』

スメラギの声が格納庫に響き、雷那達はそれぞれの愛機を展開した。

フェルト

『トレミー、全ハッチオープン』

フェルトの言葉と共に、プトレマイオス2改のハッチが開き、カタパルトが展開した。

右舷の第2カタパルトに戦闘機形態になったGNアーチャーが、左舷の第1カタパルトにはヴァーチェが、中央の第3カタパルトには戦闘機形態のキュリオスが待機していた。

フェルト

『全カタパルト、進路クリアー、オールグリーン。射出タイミングをパイロットに譲渡します』

マリ

「了解！GNアーチャー、マリ・パーファシー、出る！」

その言葉と共に、GNアーチャーを載せた台座が滑り出し、GNアーチャーが発進した。

レイティア

「よし、僕も！ヴァーチェ、レイティア・アーデ、発進します！」

アリシア

「キュリオス、アリシア・ハプティズム、目標へ飛翔します！」

発進したマリーに続き、第1、第3カタパルトからヴァーチェとキュリオスが発進した。

レイティア達が発進した後、第2カタパルトにはデュナメスが、第1カタパルトにはエクシアが発進体勢に入っていた。

ラッセ

『期待してるぜ、フェルシオ』

フェルシオ

「オーライ、任せとけ」

ラッセの言葉にフェルシオは応える。

フェルシオ

「デュナメス、フェルシオ・ストラトス、狙い撃つぜ！」

その言葉と共に、デュナメスも発進した。

第1カタパルトではエクシアを展開した雷那が真っ直ぐ前を見つめ、発進の時を待っていた。

アニュー

『雷那』

雷那

「アニューさん？」

そんな時、アニューから通信が入った。

アニュー

『頑張つてね』

アニューはそう言って優しく微笑んだ。

雷那

「…はい」

それに雷那は応え、通信を終える。

そして視線を前方に戻した。

雷那

「エクシア、雷那・F・セイエイ、行きます！」

その言葉と共に、エクシアを載せた台座が滑り出し、青と白の機体、ガンダムエクシアが発進し、青緑のGN粒子をGNドライヴから放出しながら仲間の機体と共に疾駆していった。

雷那

「こちらエクシア、敵部隊を確認」

それから雷那達がファイアバグの先発隊を確認したのは発進してから数分後の事だった。

スメラギ

『ガンダム各機、ミッションプラン通りに対応して！』

雷那達

『了解！』

雷那の報告を聞いたスメラギからの指示にマイスター達が返事を返す。

敵の先発隊のMSはヘリオン、イナクト、ユニオンリアルド、フラッグ、ティエレン、アンフ等で構成されていた。

敵部隊も、雷那達を確認したのか、それぞれの武装を構え、攻撃を開始した。

リニアライフルや長滑腔砲から放たれる実弾の群れがガンダム各機

に襲い掛かる。

兵士A

「うおおおお！」

兵士B

「死ねえええええ！ソレスタルビーイングー！」

スメラギから聞いていた通り、敵の兵器はガンダムと同じ様に人が融合しているものだった。

ある者は銃器をひたすら乱射し、ある者はカーボンブレイドやソニックブレイドといった近接武装で斬り掛かる。

アリシア

「これも人が…！」

それを見たアリシア達はやはり人を殺す事に抵抗しているのか、回避や防御をとっているだけだった。

雷那

「はあああつ！」

レイティア

「雷那君！？」

そんな中、GNソード改を展開した雷那が突っ込み、目の前のフラッグを両断した。

兵士C

「ぐああああ！」

両断されたフラッグからスパークが散り、爆散する。そのまま雷那はライフルモードにしたGNソード改を乱射しながら突っ込んでいった。

アリシア

「雷那……」

フェルシオ

「……俺はやるぜ！」

それを見て、最初に動いたのはフェルシオだった。右肩にマウンドしてあるGNスナイパーライフルを構え、それを発砲しながら敵陣に突っ込んでいく。

アリシア

「……私も！これは、私自身が決めた事だから！」

レイティア

「僕も！」

マリィ

「レイティアはトレミーの防衛！アリシアは私と一緒に来て！」

アリシア、レイティア

「……了解！」

2人はマリィに応え、レイティアはプロレマイオス2改へ向かい、アリシアは戦闘機形態に変形し、同じく変形したGNアーチャーと共に敵陣へ向かっていき、敵陣の出前で2人はミサイルコンテナを

展開した。

アリシア、マリー

「っ！っ！っ！っ！っ！っ！」

2人の言葉と共に、GNミサイルの群れが放たれ、敵機に襲い掛かった。

多数のミサイルが敵MSを撃破し、爆煙の華が多数咲いた。

そのままマリーはGNバルカンを、アリシアはGNビームサブマシンガンを乱射しながら敵陣に突っ込む。

アリシア

（アリシアあ！あたしにもやらせろ！あいつら全員ぶっ倒してやる！！）

アリシア

（エリシア……お願い）

エリシア

「任せろおおお！」

人格がエリシアに変わると、キュリオスが人型に変形し、ビームサブマシンガンを収納して腰背部のスカートアーマーに搭載されているGNビームサーベルを引き抜いた。

エリシア

「っ！っ！っ！っ！っ！っ！」

エリシアは叫びながらビームサーベルで敵機を切り裂き、爆煙に変える。

その中で左からソニックブレイドを構え、迫って来たイナクトに対し、エリシアはGNシールドを変形させたクローで迎え撃つ。そのクローがイナクトを挟み込み、自由を奪った。

エリシア

「止めだあああ！」

そこへ、クローの間からニードルが突き出し、イナクトを貫く。ニードルを引き抜いた彼女は貫かれ、スパークが散るイナクトを側に居たヘリオンに投げ付けた。

イナクトが爆発し、その爆発に巻き込まれたヘリオンも爆発した。

エリシア

「イヤツハアーツ！！次は、どいつだあああ！！！」

そう言うってエリシアは次々とMSを爆煙に変えていった。

レイティア

「GNキャノン！展開！」

その頃、レイティアはプロトレマイオス2改に向かってくる敵機に対して、GNキャノンを展開していた。

キャノンに圧縮粒子が充填されていき、それが限界に達した瞬間、彼はそれを前面に解き放った。

GNキャノンから放たれた粒子ビームがプロトレマイオス2改に迫るMSを飲み込む。それにより、粒子ビームに飲み込まれたMSは跡形もなく、溶解した。

フェルシオ

「うおおおお！」

フェルシオは両手にビームピストルを持って乱射し、エクシアを援護していた。

フェルシオ

「喰らえ！」

敵機の集団にフェルシオはスカートアーマーに格納されているGNミサイルを全て発射した。

集団にGN粒子の尾を引くGNミサイルが叩き込まれ、爆煙へと変えた。

フェルシオ

「これで全部……」

それを確認したフェルシオは既にプロトレイオス2改に向かっている雷那達と共に、帰艦しようとした。

だが、母艦に帰艦する彼らの目の前を真っ赤な熱線が遮った。

フェルシオ

「な!?!」

雷那

「赤い粒子ビーム……まさか!?!」

雷那がビームが飛来した方向を向く。

そこには背中から赤い粒子を散布している3機の機体が居た。
1つは背部にジェット推進機のようなものを付けた赤い装甲の機体。
1つは右手に大きな実体剣を構えたオレンジ色の機体。
もう1つは先程の粒子ビームを放ったと思われるビーム砲を構えた
黒い装甲の機体。
それを雷那達は知っていた。

雷那

「ガンダムスローネアイン…ツヴァイ…ドライ…」

雷那はその名を口にする。そう。あの機体もガンダムなのだ。

???

「てめえらがCBのガンダムマイスターか？どいつもこいつも未熟
だな」

フェルシオ

「なんだと!？」

スローネツヴァイのパイロットの言葉を聞いたフェルシオが怒る。

???

「だって〜青白君以外は最初の方は何もしてなかったじゃない」

スローネドライのパイロットがフェルシオ達を挑発するように罵っ
た。

???

「やめろ、挑発をするな」

それをスローネアインのパイロットが止めさせた。

????

「エクシアのパイロット、聞こえるか？」

雷那

「…お前達は何者だ？」

ゲイル

「私達はファイアバグのガンダムマイスター。私はゲイル・トリニティ」

ラジエル

「俺は次男のラジエル・トリニティだ！」

キイナ

「私は末妹のキイナ・トリニティよ」

スローネアインのマイスターに続いて、ツヴァイとドライのマイスターが自己紹介をした。

ゲイル

「単刀直入に言う。私達の仲間にならないか？」

フェルシオ達

『な!?!?』

ゲイルの言葉に、フェルシオ達は驚愕する。

ゲイル

「敵に対して全くの容赦のない攻撃。他のマイスターと違って君には“人を殺せる心”がある。どうだい？私達と一緒に来ないか？」

雷那

「……………」

ゲイル

「まあ直ぐには返事は返せないだろうね。次に私達と会う時、答えを聞かせて貰う。良い返事を期待しているよ」

そう言ったゲイルを先頭に、ガンダムスローネは離脱していき、その様子をフェルシオ達は茫然と眺めていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0079z/>

機動戦士ガンダム00 世界を変えるガンダム

2011年12月26日01時02分発行